
夏目友人帳～心が見える少女～

水無月悠

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夏目友人帳〜心が見える少女〜

【Nコード】

N0291BA

【作者名】

水無月悠

【あらすじ】

心が見える少女と妖が見える夏目の物語。

第1巻 夏目と転校生

小さい頃から

時々

変なものを見た

他の人には

見えないらしい

それらはおそらく

妖怪と呼ばれる

ものの類。

ある日の朝、夏目貴志はいつもの道を歩いていた。

「「おい、おはようー夏目」」

いつも一緒にいる北本と西村が挨拶をしてきた。

「ん？あつ、おはよう、北本、西村」

「そーいえば、夏目、知ってるか？」

「えっ？」

「今日、転校生が来るらしいよ」

ある意味情報屋な北本が言う

「ふーん…、男かな女かな…」

「えっ！夏目、興味あんのっ！？」

「北本は、情報知ってるくせに興味はないんだよね」

「うるさいぞ、西村。まあ俺も、男か女かはわかんねーけどな」

「やっぱ、男子軍にしたら女だろう、なっ？夏目！」

「…いや、どっちでもいいけど…」

「女だったらしなのはお前だけだぞ、西村」

「ちえ…」

キンコンカンコン

古典的なチャイムが鳴り、教師が教室に入ってきた

「えー、それでは転校生を紹介する。入ってきてー」
ガラッ

「今日から一緒に勉強する、相川瞳さんだ。じゃあ、挨拶を」

「相川瞳ですっ！よろしくお願いします！」

明るく元気な一人の少女が大きな声で挨拶をした。

「じゃあ、相川さんの席は…おっ！夏目の隣が空いてるな…。あの銀髪の人の隣ね」

「はいっ。わかりました。」

…ガタン

「私、相川瞳。よろしくね」

「…よ…よろしく。」

ほがらかに笑う笑顔に、夏目は少し戸惑ってしまい、口下手な自分にため息をついた。

転校してきてから一週間。瞳は、学年の中で評判がよく、たくさん友達ができていた。

「瞳さんってさ、笑顔が可愛いし、愛想がいいから、評判たけーよな〜」

西村が独り言のように言う。

「「ああ…そうだな」「」

しかし、瞳の異変に夏目が気付いたのは、転校してから2週間後の

ことだ。

ある日、夏目たちが廊下を歩いていると、曲がり角から瞳が飛び出し、男とぶつかった。

「あつ…ごめんなさい…」

「いや…、別にいいよ…」

その瞬間、異変がおきた。

急に、男の胸ぐらを掴んだのだ。

「っ…どうして…どうして嘘をつくんだ！！ハッキリ言えばいいじゃないかっ！！」

「…はっ？意味わかんね…放せよ！」

男は怒りを抑えぎみにして、去っていった。

「っ…。」

瞳は泣きそうな顔をして、壁にもたれ、そのまま座り込んでしまった。

「北本、西村、悪いが先行っててくれ」

「ああ…」

そう言いつつ、夏目は瞳のそばにいった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0291ba/>

夏目友人帳～心が見える少女～

2011年12月31日18時54分発行